

令和4年度 第2回 松本「シンカ」推進会議 次第

令和5年2月20日(月)
18:00~20:00
オンライン

- 1 開会
- 2 座長あいさつ
- 3 会議事項
 - (1) 令和4年度のまとめ(アウトプット)について
 - ア 趣旨説明と振り返り 【15分】
 - イ 意見交換① 【30分】
「方向性」について
 - ウ 意見交換② 【60分】
「アクション」案及び具現化について
 - (2) 今後の進め方について
- 4 閉会

「自然×シンカ」まとめイメージ

アクション

自然
×
シンカ

実現に向けた
取組みの方向性
(共通認識)



自然×シンカ×○○

・
・
・
・

自然×シンカ×◆◆

・
・
・
・

自然×シンカ×△△

・
・
・
・

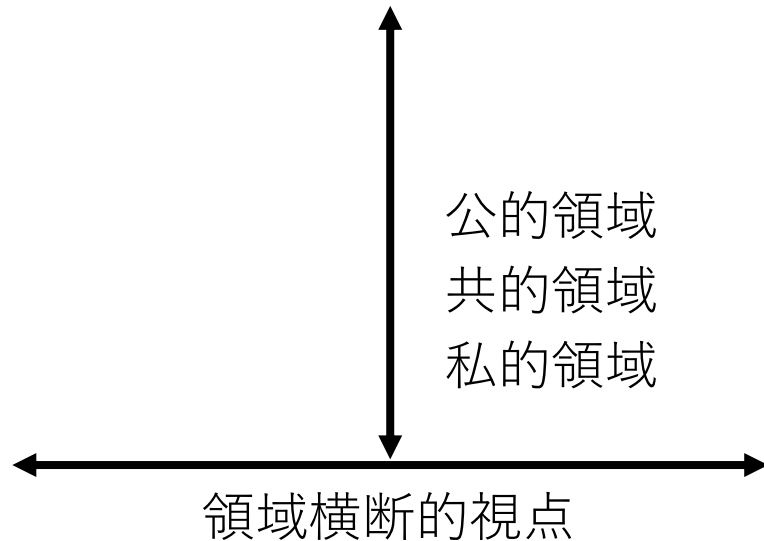
- ・ 3つのパートでアクションを考える。
- ・ 市民と行政が行動目標の下で取り組む、シンカに繋がるアクションは？
- ・ 手法とプレイヤーを意識して考える。

「自然×シンカ」分科会の議論

第1回 分科会
11月7日@市役所

テーマ説明

自然×シンカ



グループディスカッション

A班

- ・自然×シンカ → 松本らしさをシンカさせる
- ・自然をいかす → 観光 → 磨く＝ブランディング
- ・ブランディング → 水・歴史・森林
- ・松本の地域特性 = 他にないもの

B班

- ・これからの時代に相応しいものに、アップデート/トランスフォーム/ブラッシュアップ/バージョンアップさせる。
- ・受け身ではだめ。既成概念を疑って崩していく。
- ・当たり前の自然をどうシンカさせるのか
→この大きな方向づけが「こと (vision) づくり」

C班

- ・議論の起点は、「時間意識」、「町場と山場」
- ・水をうまく使う。自然×移動
- ・松本らしさ・松本を学ぶ。
→松本らしい自然を利用した学び
- ・自然を生かす・楽しむ → 観光への活用

「自然×シンカ」分科会の議論

第2回 分科会
12月12日@オンライン

「方向性」に関する意見

- 自然の恵み（森林・水・動植物）のありがたみを市民が学ぶ。マインドセットが必要
- 学校教育の現場への展開(教育プログラムへ)
→ 人を呼び込む移住の視点も
- 観光資源としての自然のポテンシャルを市民がしっかりと理解する
- 外の人から見ると、松本の自然は特別なもの。そこに魅力を感じてもらう。
- 水の豊かさを産業に結び付ける。
- どう稼ぐかを考える。稼ぐ力の創出につなげる。
- 磨くことで賑わいの創出につなげる。
- 自然の力を借りながら、産業力を伸ばす。
- 稼げる山岳ブランドのアップデート
- 地域内で経済がどう独立するかを考える。

「アクション」に関する意見

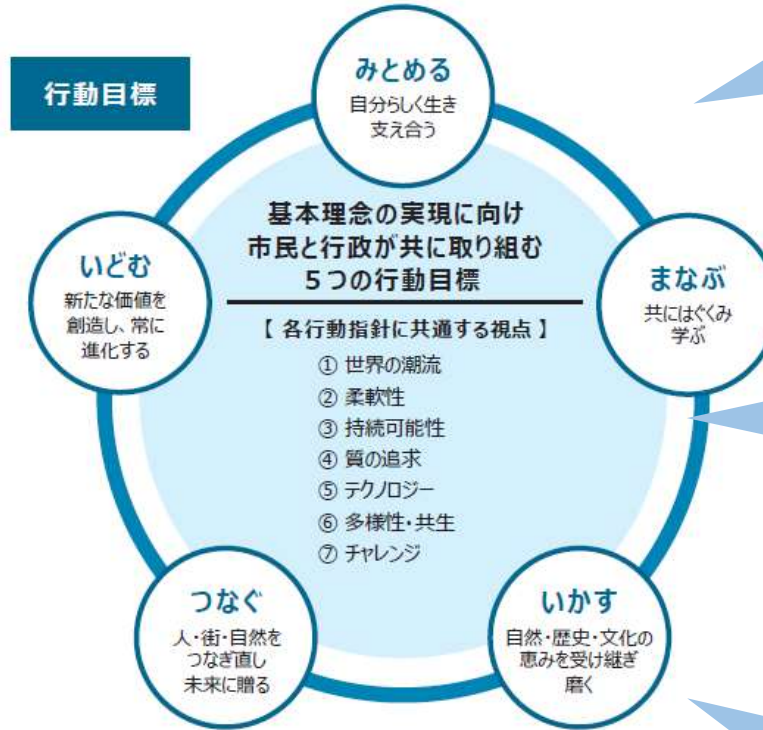
- ◆ 生物多様性・植生をまもる取組み
- ◆ 市民が実際に自然に触れる機会をつくる
- ◆ 山村留学
- ◆ 自然に触れる体験を観光に生かす
- ◆ 魅力の発信
- ◆ 河川を移動や輸送に活用
- ◆ 水辺の空間（女鳥羽川）の環境整備
- ◆ サイクルツーリズムを自転車産業の育成につなげる
- ◆ AIを活用した農業
- ◆ 山岳農地の活用
- ◆ 土葬
- ◆ セントラルヒーティングの積極的活用

「自然×シンカ」まとめイメージ

アクション

自然
×
シンカ

実現に向けた
取組みの方向性
(共通認識)



自然×シンカ×○○

・
・
・
・

自然×シンカ×◆◆

・
・
・
・

自然×シンカ×△△

・
・
・
・

- ・ 3つのパートでアクションを考える。
- ・ 市民と行政が行動目標の下で取り組む、シンカに繋がるアクションは？
- ・ 手法とプレイヤーを意識して考える。

「自然×シンカ」の議論を通じた共通認識

(分科会の意見より)

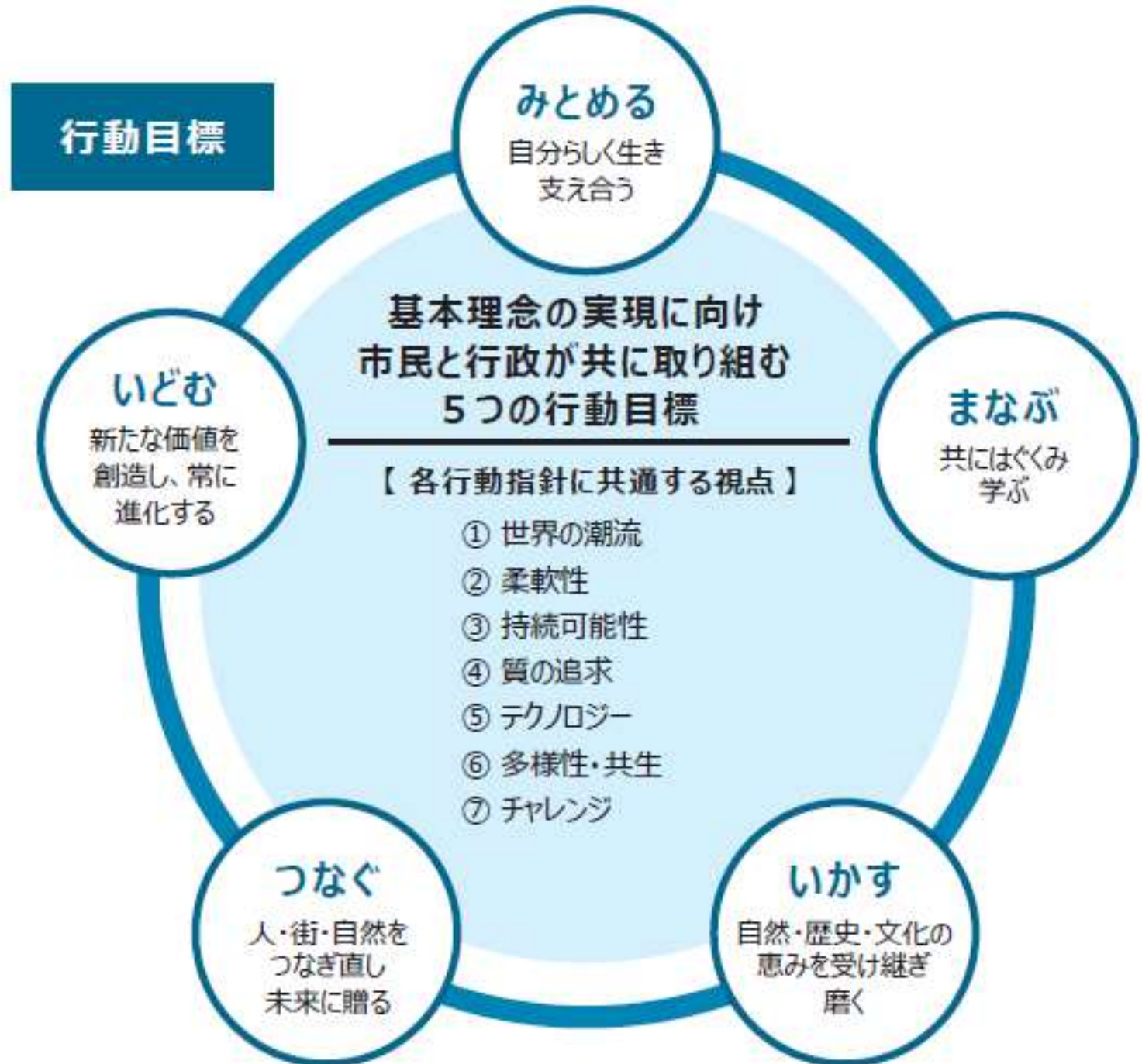
- ずっと松本に住んでいると、当たり前と感じているものに対し、外の人から、「いいね」といわれることがある。当たり前のことが、それが普通でない（＝特別なものだ）と感じた。
- 自然豊かなところに住んでいる実感はあるだろうが、それが当たり前になってしまっている。本当は当たり前ではない。山に営みがあって、まちのくらしがある、そのことに思いをはせることが大事
- 市民が自然に対する有難みがわかっていない。
- （この地に住む）自分自身が松本のポテンシャルを理解できていない。
- 自然を生かし切ることで、自然豊かなところに住んでいるという認識を持ってほしい。
- シンカは、既成概念を疑って崩していくイメージ
- 「磨く」がキーワードになるのではないか。
- 地域に暮らす人たちが自分の街を誇れるためのブランディングが必要
- 継ぎ足して味を引き出していく。

「自然×シンカ」実現に向け

取組みの方向性

基本構想2030

行動目標



「アクション」を考える

「自然×シンカ」

- 自然の使い方を、松本市外の人たちに上手いと言われるようなまちをつくっていく。

行動目標

みとめる

自分らしく生き
支えあう

まなぶ

共にはぐくみ
学ぶ

いかす

自然・歴史・文化の
恵みを受け継ぎ、
磨く

つなぐ

人・街・自然を
つなぎ直し
未来に贈る

いどむ

新たな価値を
創造し、常に
進化する

自然×シンカ×○○

・
・
・
・

自然×シンカ×◆◆

・
・
・
・

自然×シンカ×△△

・
・
・
・

ア
ク
シ
ョ
ン

「アクション」に関連する取組事例

分野	取組事例	ポイント
自然×シンカ× <u>教育</u>	<ul style="list-style-type: none">・ 区域外就学制度の検討（山村留学）・ エコスクール事業・ 小中学校環境教育事業	<ul style="list-style-type: none">・ 自然環境を守る意識の向上だけでなく、自然の魅力を学ぶ（見つめ直す）ためのアクションに繋げるための取組みをどう進めるか。
自然×シンカ× <u>ブランディング</u>	<ul style="list-style-type: none">・ アルプスリゾートの整備 上高地整備、のりくらゼロカーボンパーク、持続可能な奈川地区・ 美ヶ原高原再生計画・ 四賀移住施策・ まちなかグリーンインフラ・ 情報発信の取組み	<ul style="list-style-type: none">・ どのような情報を発信するか。
自然×シンカ× <u>産業力強化</u>	<ul style="list-style-type: none">・ カラマツ材販路拡大・ 薪の利用（木の駅事業）支援・ 地域資源を活用した再エネ生産・資源獲得支援	<ul style="list-style-type: none">・ シーズを、いかに具体化させるか。・ 「民」の取組みを支える仕組みづくり

「アクション」に関連する取組事例

○ エコスクール実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施校数	17校	20校	15校
実施事業	42事業	50事業	43事業
実施プログラム数	22講座	25講座	20講座
参加人数	2,365名	2,512名	2,544名

塩沢川ホタル観察会、ゴマシジミ観察会、ペットボトルから繊維を作ろう、トンボ観察会、牛伏川砂防えん堤めぐり、星空観察会、ロケットストーブを作ってみよう、ワシ・タカウォッチング、化石を通して地球を学ぼう、冬の自然観察会等

○ 環境教育支援事業実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
講座開催数	18回	10回	12回
参加人数	294名	145名	153名

リバーアドベンチャー、木の授業とバームクーヘン作り、水はどこから？、体感&体感！自然体験学習！、体感プログラムを中心とした自然体験学習、水辺の生物の観察会、ぬかくどご飯焼き体験、地域発見ウォーキング、生き物から学ぶ環境学習 等

「アクション」に関連する取組事例

○ 松本市美ヶ原高原再生計画（抜粋）

○ 基本方針(再生のテーマ)

F Fun Future
A Active Access
C Culture Challenge
E Ecology Economy

課題と「**向き合い**」、観光の「**顔**」としていく

そのためには・・・



分野	課題	対応方針(一部抜粋)	得られる効果	エリア
自然環境	・高山植物の消失 ・カラマツ生育による眺望悪化	・植生調査/ササ刈り/電気柵設置の実施 ・持続可能な植生回復体制	・豊富な自然資源の保全 ・環境保全への意識醸成	・美鈴湖から天狗の露地 ・天狗の露地
移動・交通	・林道の老朽化 ・バスの採算性	・林道の改善 ・MaaSの導入検討 ・グリーンスローモビリティ導入の研究	・ピーナスラインと並ぶ観光道路へ ・市街地・温泉地・高原地の連携強化	・美鈴湖 ・美鈴湖から天狗の露地 ・天狗の露地
情報通信	・より広範囲でのWi-Fi普及 ・携帯不感地帯の改善	・Wi-Fi拠点の増設 ・VRによる体験型観光	・デジタル活用で未来志向型観光地へ	・天狗の露地 ・三城
受入施設	・老朽化と在り方 ・清潔なトイレ	・プロモーションの強化 ・トイレ整備を含む施設整備	・「行きたい」目的地へ	・天狗の露地 ・三城
登山道	・崩落危険箇所の増加	・通報システムによる危険箇所把握 ・登山道のブランド化	・推奨する登山道の適切な維持管理	・三城
管理体制	・施設の活性化	・各種ガイドツアーの造成 ・指定管理者制度の導入	・民間活力による魅力発信	・天狗の露地
冬の魅力	・観光資源としての活用 ・安全性の確保	・冬山体験ツアーの実施 ・冬期対応の施設運営検討 ・索道建設など将来へ向けたの研究	・冬の絶景の観光活用	・天狗の露地 ・三城

「アクション」に関連する取組事例

○ サステナブルリゾートのりくら高原 ワークেশヨンの取組み

- ワークেশヨン拠点としての地域全体のブランディング
 - ・ のりくら高原のワークেশヨン専用Webサイトを新設
 - ・ コンセプトムービーの作成



- ワークスペースの整備
 - ・ ワークেশヨン受け入れ可能施設の増加
(宿泊 9施設、カフェ 5施設) R4年10月現在

- 体験アクティビティや地域交流等のプログラム実施
 - ・ 草原再生、トレイル整備などのアクティビティを業務時間外に
 - ・ 自然保育などで子どもを預けながら仕事が可能
親子ワークেশヨンプログラムの推進



「アクション」に関連する取組事例

○ 地域資源を活用した再生エネルギー生産・資源獲得の取組み支援

■ 脱炭素型大規模投資 支援事業

ゼロカーボンに資する製品やサービス等の生産、開発等のため、大規模投資により工場・事務所等の新・増・改築（市内移転を含む）や伴う新たな設備導入を行う企業に対し、その費用の一部を補助



来年度に向けて

- 今年のテーマ「自然×シンカ」をベースに発展させていく。
- 「アクション」として整理したものについては、その具現化に繋げる（を下支えする）市の取組みを庁内で整理し、来年度の第1回会議で事務局から提示
- 絞り込んだ3つのパートごとに、さらなる取組みに向けた方向性やアクションを議論し、深掘りする。
- 深掘りを進める中で、三ガク都のシンカを念頭に、自然以外のアプローチ（「楽しむこと×シンカ」や「学び続けること×シンカ」）に議論の軸足が移っていくことも考えられる。